



中央ウェイ

9月号

「自分にできること」を考える

副校長 姫野 滋子

東京都での感染者数の増加に歯止めがかからない状況で、東京都に発出されている緊急事態宣言が9月12日まで延長されました。

このような厳しい感染状況下においても、学校は、生徒の皆さんの学習を保障するとともに、心身の健康等を維持していく必要があります。そのためには、学校の教職員が取り組むだけでなく、生徒の皆さんや御家族の皆さんの感染症についての知識、理解のバージョンアップとそれに基づいた正しい行動の強化が肝要です。

学校で取り組む、より一層の感染対策や、生徒の皆さん及び御家庭で心がけていただきたいことについては別紙でお伝えいたしますが、学校生活の再開にあたり、中央ろうの皆さんの学びを止めないためにも、学校、生徒、御家庭が一丸となって、中央ろうの生活を守っていきましょう。

新型コロナウイルス感染症の影響で、1年延期された東京オリンピックがこの夏、行われました。パラリンピックは、9月5日までの予定で熱戦が続いています。

オリンピックでは様々な競技で無観客となり、テレビなどでその様子が放送されました。オリンピックの開会式も放送され、ピクトグラムの表現など、演出が話題になりました。開会式で話題になったことがもう一つあります。会場には手話通訳者はいたけれど、日本のテレビ放送では映されることはなかったということです。一方で、開会式の様子の放送には、手話通訳がついていた国もあったそうです。

この出来事で、いろいろな想いを持った人たちが、様々な発信をし、行動を起こしました。(知っている人もいないかもしれませんが、興味のある生徒の皆さんは、調べてみてください。) その結果、オリンピックの開会式やパラリンピックの開会式の際は、NHKのEテレで、ワイプではなく手話通訳者が画面に登場することになりました。手話通訳を担当したのは、ろう者です。そのことと、通訳している様子も、大きな話題になっています。

中央ろうの皆さんは、オリンピックの開会式、パラリンピックの開会式を、手話通訳付きでリアルタイムで楽しむことはできましたか？

私はこの夏、行動を起こせば変えられるものもあるのだということを実感しました。そして、行動を起こすこと、自分から発信することは、大切なのだと改めて思いました。テレビ放送に限らず、聴覚障害、ろう者に対しての世の中の情報保障は、まだまだ足りません。自分にできる「行動」について、再考する機会となった、東京2020オリンピックパラリンピックの手話通訳問題でした。

本校で撮影した「ろうを生きる難聴を生きる」の放送予定について

7月18日に、希望者が参加して行われた NHK Eテレ「ろうを生きる難聴を生きる」特別編「聞こえないセンパイたちの座談会」ですが、放送予定日が決まると連絡がありました。

前編 9月11日(土)夜 8:45~9:00

後編 9月18日(土)夜 8:45~9:00

撮影当日は、最初のうちは、生徒たちは緊張している様子で、質問があるか投げかけられても発言する人がいない場面もありましたが、後半は話が盛り上がり、撮影時間も予定より大幅に延びて、中身の濃い座談会となりました。さて、どのような放送になりますでしょうか。

当日、撮影に御協力いただいた生徒、保護者の皆さん、ありがとうございました。